

深まる「絆」を実感 東部全体の地域交流会に五十七名



東部活性化連絡協議会(山本芳紀会長)と広酪東部事業所は、今回で二十回目となる東部地域全域の交流会を開催した。

今回は、福山地方酪農協議会が担当地域団体で、山本会長は主催者を代表して「この交流会も二十回を迎え、自慢出来るものとなった。昨年は東北での震災があり、我々の仲間である酪農家の方も大変な被害に遭われた。まだ

まだ復興には時間がかかりそうだが、『絆』の言葉をよく耳にする。我々もこのような交流会を力に、発展的な酪農を目指して行きたい。今日は有意義な時間をお過ごし下さい」と歓迎の挨拶を述べられた。来賓として出席した隅屋寒三専務(広酪)は、最近の酪農情勢を交えT P P問題等の情報を伝えた。

会場を瀬戸内海が一望出来る大広間へと移し、参加者五十七名がコップに注がれた牛乳を片手に、木原正勝社長(山陽乳業株式会社)の発声で開宴となった。

八つのテーブルに青年部、女性部、地域の輪と久々の再会に会話も弾み平成六年の組合合併以来、会を重ねてきた交流会は、組合員間の親睦を深める本当の意味での交流会になったと改めて感じさせられた。

閉会の時間が近づき、次回担当の甲奴郡酪農組合の伊達薫組合長は「来年も皆さんとお会い出来ることを楽しみにしています。是非ご参加下さい」と挨拶し、全員の気合いの一本締めで和やかな交流会を終了した。

新会長に西平芳美さん選任 平成二十三年度総会



三次市内の酪農婦人部で構成される「ほほえみ会」(橋本加代美会長)は、会員九名が出席し平成二十三年度総会を開催した。

上程議案は、平成二十三年度会計報告、平成二十四年事業計画、会長選任の三つ。新会長には西平芳美さん(三次市和知町 写真後列右から三人目)が選任され、事業計画では研修会、研修旅行を協議された。

組合から出席の岡田友希職員(広酪事業推進課)は、二月三日に庄原ゆめさくらで開催した牛乳料理教室の報告と参加者への御礼と、三月二十三日に開催するひろらく女性グループ連絡協議会の意見交換交流会への多数の参加を呼びかけた。

● 広酪西部ミルク会

2/15 西部事業所

恒例のフラワーアレンジメント教室 春を先どるセンスが光る！



広酪西部ミルク会(東方田博子会長)は、岡広先生を講師に招き恒例のフラワーアレンジメント教室を開催。

残念ながら、降雪のため参加者は少なかったが、岡広先生は春を先取るフレッシュな創作を心がけるようアドバイスされ、会員は手慣れた様子で取り組まれた。会員は思いを込めた作品を手にして、夕方の搾乳前のお父さんにいつも有り難う」と声を添えて手渡したいと心躍らせて帰路についた。

● 三原市酪農振興会

2/24 久井倉庫

霊前で死廃事故 防止を誓う

三原市酪農振興会(新舎和久会長)は、酪農経営に貢献した乳用牛に対する感謝と慰霊を捧げる慰霊祭を行った。

新舎会長の慰霊の言葉に続き、三原市農林水産課長から「市民が牛乳や乳製品を美味しく頂き、健康でいられるのも乳牛のお陰である」と御霊前に謝辞を添え、会員らには、家畜を家族同様に扱っていることに感服し、消費者への安心・安全な牛乳生産に努力されている事への感謝の意が伝えられた。その後、住職による「佛説阿弥陀経」を参加者全員で唱え、供養を行った。

新舎会長から「死廃、死産ともに増加傾向にあり、飼養管理をしっかりと、勉強会等を開催し技術向上に努めていきたい」と決意が述べられた。慰霊祭終了後は、法要を兼ねた昼食会で締めくくった。



● 三原市酪農女性部

2/24 久井倉庫

こんなのも「アリ」ね！

楽しかった手芸教室「お雛様作り」に挑戦！

三原市酪農女性部(岡田吹子部長)は、午前中の三原市酪農振興会の慰霊祭に続き、お雛様作りに挑戦した。

樽好美子所長(東部事業所)が講師を務め、事前に準備した材料をもって、作り方を指導した。細かい作業や色彩センスを問われる作業に、参加者らは真剣なおももちであった。

それぞれのお雛様の出来映えを見ながら、「これからはみんなで指先を使って、こんな事をするのも良いね」「かわいいね」「こんなのをちょっと飾って

置くのも良いよね」と満足そうな様子であった。

次回の手芸教室を楽しみに、ケースに収めたお雛様をもって我が家に向かわれた。





共に解決策を探る

西部地域の若者の会「西部楽酪会」(井上正芳会長)は、日頃の牧場経営での悩みや会員の意見を聞き、それを解消できればとの思いから研修会を開催し、十名が参加した。

翌日にこのような症状が見られることは無い。むしろ、酪農ヘルパー派遣日以前に何か原因があると考えられる。酪農ヘルパー員は、引き続き消毒励行の徹底にあたられるべき」と答えた。

研修会に参加したメンバーの一人は、この会の構成員に加わる獣医師に問いかけた。「最近、広酪から下痢と発熱を伴う疾患が増え、酪農家訪問の際における消毒励行など注意を促す文書が届けられている。酪農ヘルパー員が業務のため酪農家訪問する際、特に消毒等に細心の注意を払っている。この一方で、酪農ヘルパー事業利用の酪農家からは、酪農ヘルパー員が来たときに下痢や発熱等が発症したとの指摘意見を聞く。果たして、ウイルス性の疾病感染の期間はどの程度か？」

この他、ロールサイレージを作る会員からは、「品質の問題か夏場の種付けが思わしくなく、何か良い手立てはないか？」と相談があり、会員からは「飼料分析を定期的に行なうべきでは？」との意見が出された。生乳生産基盤強化のため育成に力を注ぐ会員からは「労働力もなく預託を行いたい」との要望があり、寺道弘生所長(西部事業所)は「現在、組合では全酪連に多く預託している。広い草地でのびのびと育つので是非利用されたい」と勧めた。また、今後の活動として、酪農教育ファームの取り組みについて興味があり、視察を計画してほしいとの要望があり、今後、検討する事とした。

山陽乳業(株)へ 視察研修



三次市酪農振興会(橋本洋資会長)は、山陽乳業(株)を視察先とする研修会を開催。会員・関係機関ら13名が参加した。

山陽乳業(株)では、木原正勝社長、富井常務の歓迎を受け、早速、スライド等を使って工場概要の説明を受けた。

参加者は熱心に説明を聞きながら工場を見学した。終始和やかな雰囲気でも気あいあいと有意義な視察研修会となった。